

# I 野菜の概況

## 1 野菜の需給動向

野菜の1人1年当たりの消費量（供給純食料）は近年減少傾向で推移し、平成22年度（概算）は88.3kgと、平成21年度の90.9kgと比べ2.6kg減少した。

また、野菜の生産量は平成22年度（概算）は1,173万トンとなり、平成21年度の1,234万トンと比べ、61万トン減少した。

一方、平成22年度の野菜の輸入量は天候不順が続いたこと等によるたまねぎの国内生産量の減少から278万トン（生鮮換算ベース）で、平成21年度の253万トンと比較すると前年比110%と増加した。

この結果、平成22年度の野菜の自給率（概算）は、前年度から2ポイント引き下がり81%となった（表1）。

表1 野菜の需給動向

### (1) 平成22年度（概算値）

人口 128,056千人（平成22年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内 生産量	外国貿易		在庫の 増減量	国内消費 仕向量	国内消費仕向量の内訳					
		輸入量	輸出品			飼料用 加工用 種子用	減耗量	粗食料		純食料 総数	供給数量 1人1年 当たり
								総数	1人1年 当たり		
野菜	11,733	2,782	5	0	14,510	0	1,482	13,028	101.7	11,307	88.3
a. 緑黄色野菜	2,562	1,224	0	0	3,786	0	362	3,424	26.7	3,161	24.7
b. その他の野菜	9,171	1,558	5	0	10,724	0	1,120	9,604	75.0	8,146	63.6
野菜	11,733	2,782	5	0	14,510	0	1,482	13,028	101.7	11,307	88.3
1. 果菜類	3,155	1,356	0	0	4,511	0	446	4,065	31.7	3,375	26.4
うち果実的野菜	729	65	0	0	794	0	96	698	5.5	477	3.7
2. 葉茎菜類	5,652	911	0	0	6,563	0	817	5,746	44.9	5,053	39.5
3. 根菜類	2,926	515	5	0	3,436	0	219	3,217	25.1	2,879	22.5

資料：農林水産省「食料需給表」

### (2) 平成21年度（確定値）

人口 127,510千人（平成21年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内 生産量	外国貿易		在庫の 増減量	国内消費 仕向量	国内消費仕向量の内訳					
		輸入量	輸出品			飼料用 加工用 種子用	減耗量	粗食料		純食料 総数	供給数量 1人1年 当たり
								総数	1人1年 当たり		
野菜	12,344	2,532	9	0	14,867	0	1,514	13,353	104.7	11,589	90.9
a. 緑黄色野菜	2,673	1,176	2	0	3,847	0	365	3,482	27.3	3,212	25.2
b. その他の野菜	9,671	1,356	7	0	11,020	0	1,149	9,871	77.4	8,377	65.7
野菜	12,344	2,532	9	0	14,867	0	1,514	13,353	104.7	11,589	90.9
1. 果菜類	3,314	1,297	2	0	4,609	0	453	4,156	32.6	3,446	27.0
うち果実的野菜	774	62	0	0	836	0	101	735	5.8	501	3.9
2. 葉茎菜類	5,985	696	1	0	6,680	0	832	5,848	45.9	5,147	40.4
3. 根菜類	3,045	539	6	0	3,578	0	229	3,349	26.3	2,996	23.5

資料：農林水産省「食料需給表」

### (3) 食料自給率

（単位：%）

	昭和40年度	50	60	平成7年度	13	17	18	19	20	21	22（概算）
供給熱量ベースの総合食料	73	54	53	43	40	40	39	40	41	40	39
野菜	100	99	95	85	82	79	79	81	82	83	81

資料：農林水産省「食料需給表」

## 2 野菜の価格動向

平成22年産の春野菜は、春先の低温・多雨等の天候不順の影響から、生育が停滞したことによりキャベツやレタスなどの葉菜類、なすやトマトなど果菜類の入荷量が少なくなったため、3月下旬から4月にかけて価格が高騰した。そのため前倒し出荷の緊急需給調整を含めた野菜の供給確保に向けた取り組みが行われた。

4月以降は、天候の回復に伴い生育停滞から回復傾向となったため、ねぎなどの一部の品目を除く野菜全般で入荷量が増加したことから、価格は5月以降落ち着いて推移した。

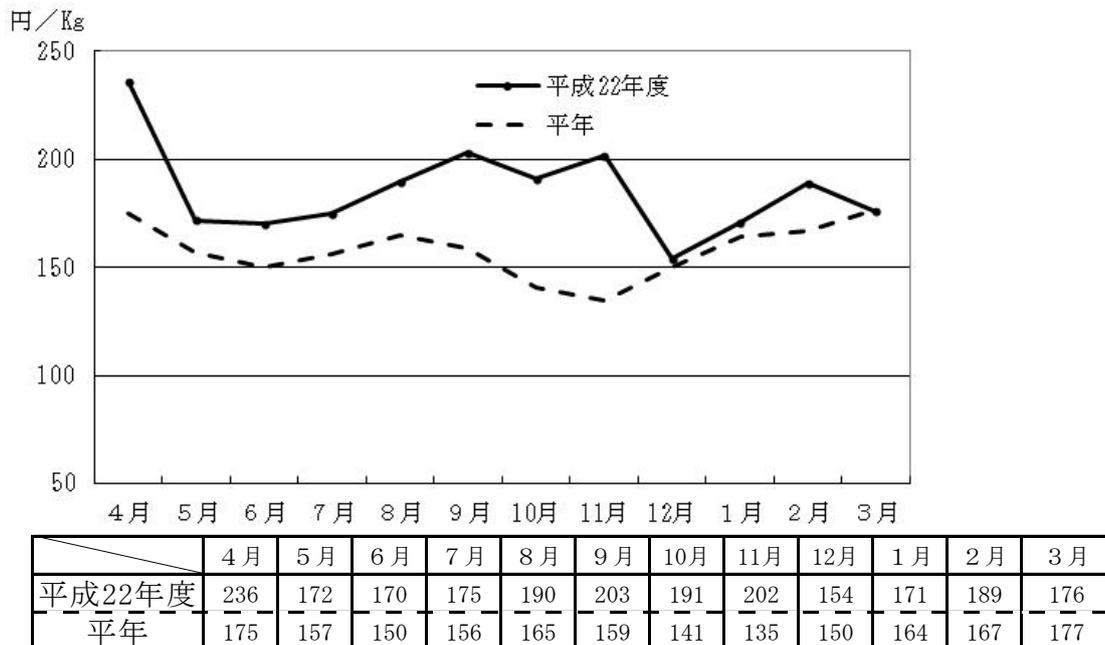
夏秋野菜は、6月から9月にかけては平年のない猛暑となり、その影響から主産地の北海道、東北、高冷地産の夏秋ものが早めに切り上がり、加えて後続の関東を中心とする産地の生育も遅れ、供給の谷間が生じたことから、指定野菜14品目は全体的に入荷量が減少した。なかでもレタスなどの葉菜類、トマトなど果菜類が少なかったことから、8月中旬から10月上旬にかけて価格が高騰した。

こうした中において、夏はくさいについては漬物需要などの夏場の需要が減少する一方、主産地である長野県を中心に順調な出荷があったことから価格が低迷した。そのため、7月中・下旬に緊急需給調整（市場隔離）が行われた。

秋冬野菜は、11月は播種時期の夏場の高温等の影響を受け入荷量が少なめに推移したことから価格は高めに推移したが、12月は主産地の生育も回復し、平年並みの価格で推移した。2月は年明け以降の低温・少雨の影響から果菜類を除いて平年を上回る価格となった。

また、3月11日の東日本大震災の影響から、ほうれんそうなどの出荷制限、各種イベントの自粛等から野菜全般において需要減退がみられ、特に外食需要の減少もあり3月の価格は平年を下回った（図1）。

図1 指定野菜（14品目）の卸売価格の動向（東京都中央卸売市場）



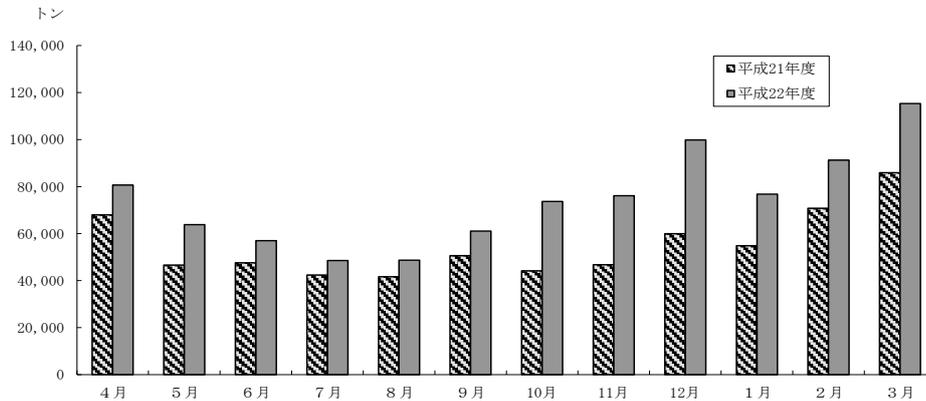
資料：東京青果物情報センター「東京都中央卸売市場における野菜の市場別入荷数量及び価格」

注：平年とは、過去5カ年（平成17年度～21年度）の月別価格の平均値である。

### 3 野菜の輸入動向

平成 22 年度の野菜の輸入は、天候不順による国内産の不作の影響でたまねぎ、にんじん等の輸入量が増加したことから生鮮野菜は、前年比 136%の 89 万 3 千トンとなり、野菜総量では前年比 111%の 250 万トンとなった（図 2、図 3）。

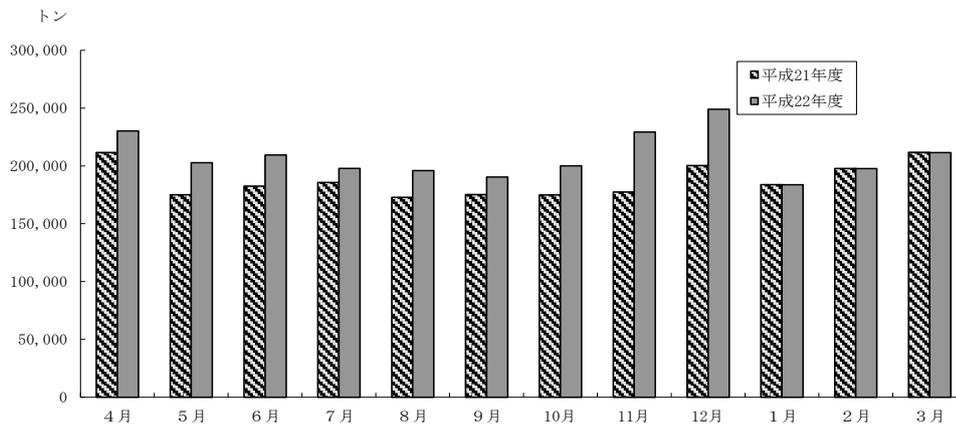
図 2 生鮮野菜の月別輸入量の推移（平成 21 年度及び平成 22 年度）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成21年度	67,893	46,491	47,469	42,330	41,541	50,511	44,059	46,704	59,833	54,719	70,712	85,799	658,061
平成22年度	80,624	63,833	56,994	48,547	48,715	61,087	73,658	76,081	99,837	76,760	91,254	115,349	892,740
対前年比													135.7%

資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

図 3 野菜総量の月別輸入量の推移（平成 21 年度及び平成 22 年度）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成21年度	211,484	174,960	182,436	185,655	172,682	175,129	174,772	177,396	200,240	183,752	197,707	211,611	2,247,825
平成22年度	230,341	202,731	209,471	197,820	196,017	190,406	200,123	229,383	248,975	183,748	197,703	211,605	2,498,324
対前年比													111.1%

資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」